

生産者の顔、見える林業に

その木はどんな山で育ったのか。切った後にいつ植林されたのか。製材や加工はだれがしたのか。そんな「木の履歴書」を消費者に届けているのが「東紀州・尾鷲ひのきの会」(泉雅夫代表)。FSC認証を取得した、三重県海山町と隣の尾鷲市などの林業家、製材・木工業者ら十団体のネットワークだ。木を使う人たちのつながりから、林業再生を試みている。

(鈴木 久美子)

東紀州・尾鷲ひのきの会

「木が生まれた森のことも想像して、木を使うことが森を守ると感じるきっかけになれば」。会事務局で、国内で初めてFSC認証を取得した速水林業に勤める川端基洋さん(33)は話す。

環境に配慮し、地域振興にもつながる森づくりをしていることは、認証



製品にはこんな「木の履歴書」がつく

速水林業 三重県海山町 TEL 0909 828 00130	森林組合おむすぶ 三重県海山町 SCS-COC-02022	ウダメイカキタムラ 三重県海山町 SCS-C-00156
山林の所在 三重県北牟婁郡海山町 鹿野谷	樹種 杉	樹齢 95年
伐採方法 皆伐	2004年	樹齢95年

FSCは「木を利用しながら、森をまもるしくみです。FSCのロゴマークは、道徳に管理された森林から採れた木材を意味し、その製品が持続可能なものであります。」

CS-C-00156
Certified by Scientific Certification Systems
FSC® Trademark © 2009 Forest Stewardship Council

市場通さず直接届ける

によって示された。森への信頼をベースに、さらに、自分たちがつくった木であることを消費者に明確に知らせるのが「木の履歴書」だ。食品では「地域でまごった。普通になつたトレーサビリティを木でも行っているのだから。」

履歴書には「林業家や製材・加工者の名前」「木が育った山の名前」「樹種、樹齢」「間伐か皆伐か」「皆伐ならその後いつ植林するか」を記し、シールで製品に張る。

速水林業がFSC認証を取得したのは二〇〇〇年。趣旨に賛同したほか、製材業も仕事がなくな

の林業家や製材、加工業者も相次いで認証を受けた。会の発足は〇三年。低迷する木材販売を単独で打開するのは難しく、地域でまごった。一帯で産出する「尾鷲ひのき」は、枝打ちや密度の綿密な管理など手間をかけ、節の少ない高級柱や飾り板を生む。

そんなブランド木材も、外国産材の輸入で価格が崩れ下がるばかり。丸太の価格は、ピーク時の一九八〇年ごろの三分の一から四分の一だ。山にお金が戻らなくては、苗木を植えて新たに木を育てる山の循環も滞るし、

「木の履歴書」添付 使う人に情報提供



地元の木で、地元の大工さんが家を建てる＝三重県海山町で

どへと木は流れていく。つた町が好きだし、山に市場を通さずに木を買ってもらうためには直接、山の側から情報発信しなければならぬ。手探りで、東京や名古屋などの木材見本市に出かけ、パンフレットを配りお客さんに説明した。

FSCへの関心もあって、次第に問い合わせが来るようになった。「来るもの拒まず」で、これまでに受けた注文は、額縁一つから家の材まで、数千円から数百万円単位。全国に及ぶ。

だが、流通ルートも簡単にしても、外国産材などより価格は高い。今後は、消費者と直接かわる工務店の理解をさらに広げたいという。

る。山の手入れもままならず、皆伐後に木を植えないはげ山が一带で四、五百彩あるといわれる。

会は、消費者と森を結ぶ「森のみえる家づくりに」を目指した。「木の履歴書」と同時に、市場を通さず直接消費者や工務店に木を届ける仕組みに取り組んだ。

これまで林業家らは、営業の仕事をあまりしなかった。立木や、切った木を業者を通じて丸太市場に出荷すれば、あとは斫りで製材業者が買い、製品市場を通過し、材木屋から工務店はないなと。生まれ育

「長い目で見れば、国産材は高いものではない。森づくりを担う山側にとつての適正な価格を、消費者に納得してもらう努力もわれわれに必要です」と川端さん。森に来て、木に触れて、納得して木を使いませんか、と呼びかける。

三重県海山町で、会を通じた材木を構造物に八割以上使い、在来工法で建築中の家を訪ねた。ふわーっといい香りが漂う。施主は、町職員の岩見建志さん(60)。床はむしなかつた。中でもりヒンクと書斎は床も壁もヒノキ太市場に出荷すれば、あに、とこだった。

「せっかくなので地元にある木なのだから、使わん手